



大野市教育委員会たより

令和元年7月1日発行 第6号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：6月25日(火)午後7時～9時	次第 ・教育長挨拶
場所：有終南小学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：有終南小学校保護者(出席者11人)	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎ICT教育は、大野独自の教育なのか、国が進めていることなのか。

⇒ ■プログラミング教育を含めて、国全体で進めている教育である。自治体によって導入の差はある。来年1月に小学校のパソコン教室のパソコンをタブレット(各学校1学級分)に入れ換えて、パソコンの授業だけでなく他の教科での活用も図る予定である。また、教室に電子黒板を配置し、各授業で活用している。

⇒ ◎授業参観で電子黒板を使った授業を見て、黒板より分かりやすいと感じた。デジタル化になるのは良いが、書いたり、定規を使ったり、自分で物を使うアナログ的な部分も社会に出たら必要となるので残して欲しい。

⇒ ■デジタルとアナログを融合しながら、教育を進めていかなければならないと感じている。

◎他の地域と違い、大野独自で力を入れている教育があれば教えてほしい。

⇒ ■ICT機器を配置した教育と人的配置である。教育委員会では、「確かな学力を育む学校づくり」として教師の授業力の向上を図っている、もう1つは「安心して通える学校づくり」として、いじめ・不登校を防止するために結の故郷教育支援員を、有終南では3名配置している。学校生活に慣れない子などを担任1人では負担がかかるため支援員が補佐している。他に結の故郷教育相談員も配置している。これらの人的配置は、他の市町より厚くなっている。またALT(外国人の先生)も3名配置し、週2回のすべての5、6年生の授業に入り、外国語教育を推進している。

⇒ ◎大野に住む理由、大野の学校に通う理由がしっかりあるといいと思った。もっと大野らしさが明確になっていると良いと思う。

⇒ ■県教育委員会の施策で「地域とともに進める授業」を行っているが、この取組みよりも先に、大野は、子どもたちがふるさとに愛着と誇りを持つ「ふるさと教育」に力を入れている。

⇒ ■ICTや相談員、ALTの配置をしているが、基本はいじめや学校に来れない子がなく、差別がない、親が安心して子どもを預けられる学校であり、その上に学校の特色があると思っている。

◎学校が大規模化した時に、1つの分野に飛び抜けている・この教育を受けさせたいがために大野に残る・ひいては大野に移住するぐらいまでになれば再編のメリットはあると思った。教育委員会や先生だけでメリットをシェアするのではなく、外に向けてアピールしていくことが必要と思う。親の意識付けにもなるし、ひいては自信や誇りにつながる。先生たちが頑張っている姿を見ており、先生自身が誇りを持てる職場であってほしい。

◎自校給食は子どもたちの楽しみであり、残して欲しい。

⇒ ■学校給食に年1回、醤油カツ丼やのっぺい汁、里芋コロッケが出る。給食を楽しみにしている子どもはたくさんいる。

◎子どもが小さいうちは学力の差はあまりないが、高学年になれば差が出てくる。この差をどこまで学校がフォローしてくれるか。家庭でも、子どもに少しでも自信をつけさせたいと思い、親として支援できればと思っている。学校教育に求めるものは自立である。自分の将来を自分で決めていく力。この職業に就くには、どういう勉強をするといい、何のために勉強をしないとイケないかなど方向性が分かる教育が必要と感じている。

⇒ ■小中学校では集団で学ぶことを学校教育でやっているが、学びというのは最後は1人でないかと思う。いろいろなことを1人で学んでいかないとイケなくなる。その過程の一部分が家庭学習になっていると思う。家庭の役割と学校教育の役割を見分けていかないとイケない。家庭学習(宿題)で分からない部分があれば

ば、それは学校の役割と思っている。家庭学習での家庭の役割は、学習ができる環境づくり、頑張っている子どもを褒めるなどであると感じる。

⇒ ■中学校では、実際に大野で仕事をしている方から話を聞くキャリア教育を行っている。

⇒ ◎今の小学生はしっかりしており、自分の夢や将来になりたい職業を全員が語る。

◎子どもが小さいため、自分が受けている教育が大野独自のものであるということが分からないと思う。成長した時、大野のことを教えてもらっていた、恵まれた環境で育っていたと感じられたら嬉しい。子どもは新しい環境にすぐに順応する。固まった環境だけでなく、いろいろな環境を感じさせられたらと思う。給食は匂いを感じたり、温かいものを食べられたりすることを希望するので自校式が良い。

◎校外学習をいろいろ取り入れてもらえている。親が連れていけない所、見せてあげられない所へ行っているのも、とても有難い。学校再編してもその取組みはやってほしい。

◎特別支援学級の子でも、いろいろな体験をさせてもらっている。先生にも手厚く見ていただいている。再編で中学校が1つになった場合、現在少ない人数でしっかり見ていただいているのがどうなるのか不安である。

⇒ ■特別支援学級は1学級8人が上限で9人になると2学級になる。通える学校づくりを強い決意を持って進めたいと思っている。市では他の学校の子とも交流することで見聞を広めている。

◎報道などでいじめが多く、自殺した後に原因が分かたりする。集団生活に苦手な人もいるが、どうしても学校へ行かなければならない雰囲気がある。苦手なら学校へ行かなくても良いということを手厚くしてあげる必要がある。

⇒ ■どの子にも居場所が必要である。不登校になると一番つらいのは子ども本人。居場所の一つとして、青少年教育センターにフレッシュハウスがあり、臨床心理士や相談員、スクールソーシャルワーカー（家庭支援員）が配置され、保護者の相談対応などいろいろな支援をしている。

◎有終南や西、東など市街の小学校の保護者は、再編に関心がないと思う。6月22日に防災キャンプが旧蕨生小学校で行われたが、とても良い学校で子どもを通わせたいと感じた。再編を考える場合、市街の子が郊外の学校に行くことも検討してほしい。

⇒ ■郊外の学校の保護者の中では、そのような意見もある。

⇒ ◎保護者が自由に学校を選べたらいいと思う。例えば、たくさん子どもがいる学校、子どもが少なく伸び伸びした学校、スポーツに特化した学校などがあっても良いと感じる。



◎再編への意見について、未就学児の保護者にも聞かないといけないと思う。

⇒ ■これから保育園・こども園の保護者にも話を聞くこととしている。

⇒ ◎子どもたちは再編について、どう感じているのか。これまで調べたことがあるか。

⇒ ■小学校6年生、中学校2年生にアンケートを実施し、学校についての意見を現在聞いている。（集計後、市ホームページに掲載予定）

◎上庄キッズ（バレーボールチーム）に入っている児童で、競技を続けたいため、バレー部がない開成中ではなく上庄中に行っている。子どもは、中学校がどうなるか分からない、先が見えない状況を不安に思っている。これは大人の責任だと思う。早く再編の方向性を決めた方が良い。中学校における部活動は大切に、たくさん部活があった方が良い。いろいろな絆が生まれる。中学校2校ぐらいにして、競い合った方が良い。働き方改革で部活の練習が減り、自主練習が行われている。部活の管理はどうなっているか。

⇒ ■部活は、現在平日で2時間、休日で3時間と決めており、質の高い練習を目指している。生徒任せの自主練習中に、事故があってはならない。部活のあり方について校長会と協議している。

◎再編のメリット、デメリットがビジョンとしてはっきり見えていない。再編をすることで、手厚い授業や特色ある授業が受けられる、校外学習を増やすことができるなど、再編のデメリットをカバーする内容が見えてくると話がしやすいと思う。

⇒ ■現再編計画の見直し案を今後、提示させていただくこととなる。その時に、また意見を聞きたいと思う。

◎中学校の部活で、他の中学校の部活をすることは難しいのか。

⇒ ■やってやれないことはないが、やりたい部活がある中学校へ練習に通う方法が難しい。中体連では、お互いの学校の人数が不足する場合は合同チームとして大会に出場できるが、片方だけの学校の人数が少ない場合の合同チームは大会の出場を認めてもらえないのが現状である。

◎再編の背景にはコストが関係していると感じている。子どものためにはコストをかけるという意識は忘れないでほしい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。